

聽診記

第60号・令和元年9月



慶應義塾大学医学部内科学教室同窓会

半学半教で広がる絆



村上 円人

(昭和 59 年卒 63 回生)

1995年に日野市立総合病院に慶應から唯一の内科医として赴任した時に、小生のインストラクターとしての歩みは始まった。他大学医局出身の5人のやんちゃな内科医達と孤軍奮闘しシニールな経験をするなか、新病院をつくるために、慶應の内科関連病院と日本内科学会教育関連病院になることが小生のミッションとなった。2002年に待望の新病院となり、慶應から内科医の増員も進みそのミッションは遂行された。その後、臨床研修病院、新専門医制度内科基幹病院の取得に尽力し初代の研修センター長となった。医学生、研修医、専攻医と臨床現場でともに汗を流しながら、半学半教の楽しさを知り、それが成長につながったと実感している。全国からも内科医が集まり9人の腎臓内科体制を築いた。

2017年に佐野厚生総合病院に病院長として異動後は、「人財は病院の宝」というスローガンを掲げ、研修センターを立ち上げ、新専門医制度内科基幹病院の取得を自ら行った。2019年1～6月で、日本糖尿病学会、日本内科学会、日本腎臓学会総会、日本透析医学会総会に8演題の指導をした。

今回の授与式には小生の医師人生を変えたオーベンがご臨席されておりました。猿田享男名誉教授と岡本真一郎教授です。慶應病院で初期研修医だった当時、猿田先生は専任講師、岡本先生は米国留学直前でした。当時からこの2人のオーラは神がかっており、そのパフォーマンスは、まさに超クールかつ超ホモサピエンス的でありました。確かなことは、この恩師の指導により、小生はこれから目指すべき医師像を見だし、自分の何かが変わったという衝撃、その感覚を今も覚えています。しかし小生はインストラクターとして、未だ偉大な諸先輩方の足元にも及ばないと思います。今回の受賞は慶應の関連病院で地域医療に貢献し地道に半学半教を継続していることに対する温かいエールと感じております。心から、ありがとうございます！

佐野厚生総合病院 病院長 村上円人
慶應義塾大学非常勤講師（内科学教室）
慶應義塾大学客員教授（医学教育統轄センター）

1988年から猿田享男教授に師事し、腎臓内分泌代謝内科医としてのキャリアを始める。1993年の米国にクリーブランドクリニックに公費留学後、22年間にわたり日野市立病院に勤務し、副院長、研修センター長として、若手医師・医学生の指導に従事するとともに、2016年度からの日野市特定健診での微量アルブミン尿検診の導入に貢献。2017年より現職。透析センター長、臨床研修プログラム責任者指導医、2019年度から佐野市の特定健診の無料化に貢献するなど、地域医療の再生に取り組んでいる。